

『じゃんけん』あそび

島 崎 あかね

1. はじめに

上田女子短期大学に勤務し、「身体表現指導法」「幼児の体育」といった体育関連科目を担当させていただくようになって3年目となった。これらの授業のコンセプトとして『乳幼児期の子どもにとって、あそびや運動を通して身体を動かすことの重要性を理解したり、表現力を養うことを自らの身体で体験する』を掲げており、授業時間の多くを「子どものあそびの実践」に充てている。そのため、授業中にチーム分けやルール上で『じゃんけん』をすることが多い。すると、これまで関東圏内の大学で非常勤講師を務めている時にはあまり意識していなかった『じゃんけん』に方言と同じような特徴があることに気がついた。

そこで、あそび始めのきっかけを作る『じゃんけん』について、その掛け声の地域性やじゃんけんあそびを紹介したいと思う。

2. 『じゃんけん』の種類

じゃんけんはご存知の通り、大きく分けて勝敗を決める時とチームを分ける時に使われることが多い。勝敗を決める時は、『グー』『チョキ』『パー』の3種類を使うが、チームを分ける時は、『グー』と『パー』の2種類である場合がほとんどである。

そもそも『じゃんけん』は、西日本に多く残る拳遊びから考案されたもので19世紀後半に誕生したと伝えられている。

じゃんけんの掛け声を調べてみると、地域によっていろいろあるようだ。勝敗を決める時の掛け声は「じゃん、けん」まではほとんど同じであるが、そのあとが「ぼん」「ほい」「ほい」「ほっ」「せっ」などと違いがある。また「じゃん、けん」の部分が「じゃい、けん」や「いん、じゃん」というのもある（表参照）。

地域	掛け声
北海道・東北	じゃんけんしょ あいこでしょ じゃんけんほっ あいこでほっ じゃんけんぼん あいこでしょ しょ しょ じゃんけんほい あいこでしょ じゃんけんぼん あいこでしょ じーげんぴ えーっしょ じゃんけんぼ あいこでしょ
関東	じゃんけんぼん あいこでしょ じゃんけんほい あいこでしょ じゃんけんほっ あいこでしょ
信越・北陸	じゃんけんぼん あいこでしょ じゃんけんほい あいこでほい じっけった あいこでしょ
東海	じゃんけんほい あいこでしょ じゃんけんぼん あいこでしょ じゃんけんせっ あいこでせっ じゃんけんほい あいこでしょ しょ しょ しょ
近畿	いーんじゃーん で ほーい あいこでしょ じゃーいけーん で ほい あいこでしょ いーじゃんでほい あいこでしょ じゃんけんでほい あいこでしょ じゃんけんほい あいこでしょ じゃーいけんで ほおい あーいこでしょ いんじゃんほい じっけんほい あいこでほい
中国	じゃんけんほい あいこでしょ しょ しょ じゃんけんほい あーらっしょい じゃんけんで ほーい あいこでしょ
四国	じゃんけんぼん あいこでしょ じゃんけんぼん あいこでしょ しょっしょでしょ じゃんけんほい あいこでしょ しょっしょっ
九州・沖縄	じゃんけんぼん あいこでしょ じゃんけんほい あいこでしょ じゃんけんぼん あいこでしょ しょっしょのしょ じゃんけんぼー あいこでしょ じゃんけんしっ あいこでしっ

あいこになった場合は「あいこでしょ」が最も多いが、さらにあいこになった場合は「あいこでしょ」を繰り返す場合と「またあいこ」と変化する場合もある。私自身は「じゃん、けん、ぽん」「あいこでしょ」を子どものころから使っていたが、あいこが繰り返された時の「またあいこ」は今年初めて聞いた掛け声だった。

じゃんけんのタイミングを合わせるために「最初はグー」といってお互いにグーを出し合うことが多いが、これは1981年にドリフターズの志村けんと仲本工事が行ったものが全国的に広まったものとされている。確かに、じゃんけんはお互いのタイミングが合わないとその勝敗にも影響があるし、後出しの反則となってしまう場合もある。それを考えると、テレビから発信されたタイミングを取るルールとはいえ、全国的にそれも子どもだけでなく大人社会にも広まったのは不思議ではなく、もしかすると、現在では勝敗や順番を決めるためにじゃんけんをする時、「最初はグー」を言わずにじゃんけんをするほうが小数になっているかもしれない。ただし、じゃんけんを利用したあそび（ゲーム）の場合はその限りではなく、例えば「あっちむいてホイ」をする時に「最初はグー」の掛け声を入れていると逆にタイミングが取りづらくなるように感じる。

一方、グループを2つに分ける時に使われるじゃんけんは主に「グー」と「パー」の2種類を出す。この時の掛け声も通常のじゃんけんと同様にいろいろな種類がある。「グーとパーで分かれましょう」や「グーとパーであった人」「グーパージャン」「グッパージャス」「グーとパッ」などであるが、中には「うらうらおもてどーっち」と掌を上（表）に出すか下（裏）に出すかというように手の出し方に合わせて掛け声自体が変わる場合もある。地域によっては、「グー」と「パー」ではなく「グー」と「チョキ」で行なう場合もある。

いずれにしても、勝敗またはグループ分けが確定するまで繰り返される。

3. じゃんけんを用いたあそび

遊びを始める前の順序決めやグループ分けとして用いるのではなく、じゃんけんの勝敗そのものをルールとするあそびは数多くあるが、ここでは幼児向けの簡単なじゃんけんあそびをいくつか紹介する。

<じゃんけん列車（またはじゃんけんチャンピオン）>

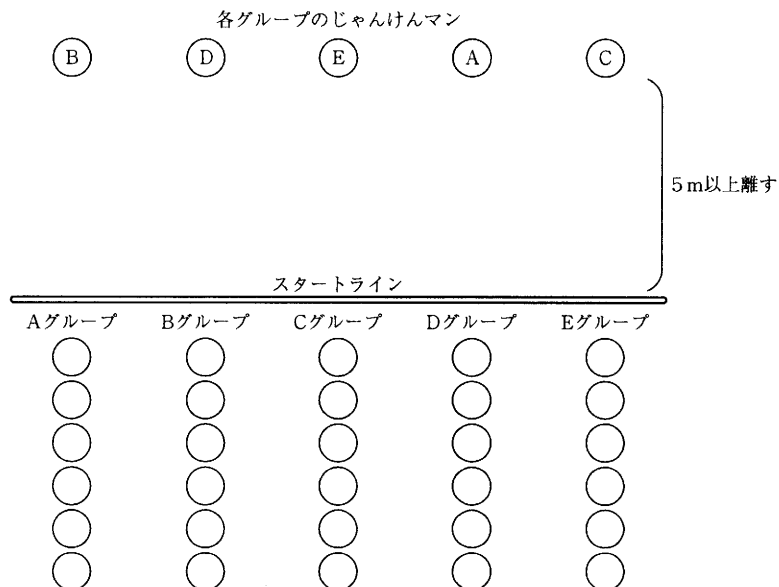
人数：10人以上何人でも

- ① 近くの人とじゃんけんをし、負けた人は勝った人の肩につかまるように後に繋がる。
- ② 勝った人は次のじゃんけん相手を探して進み、じゃんけんをする。負けたら勝った列の後に繋がる。
- ③ これを繰り返し、じゃんけんに勝ち続けた人が列の先頭となって、参加者全員が一列に繋がる。

< 関所破り >

人数：1グループ5人以上、3グループ以上あるほうが盛り上がる

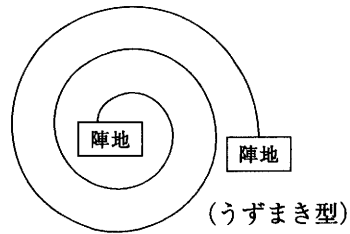
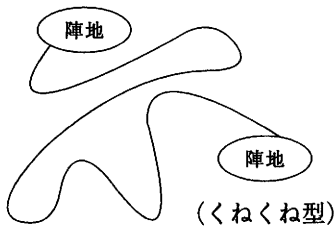
- ① 各グループからじゃんけんマンを一人選び、他の人はスタートラインに一列に並ぶ（じゃんけんマンとスタートラインの間隔は5m以上離す）。じゃんけんマンは自分のグループ以外の列の前方に立つ。
- ② スタートの合図で各グループがひとりずつ順番に、前方にいるじゃんけんマンのところまで行き、じゃんけんをする。勝ったら次の人に交代する。負けた場合は一度自分の列まで戻り、再度じゃんけんをしに行く。各グループの全員がじゃんけんに勝つまでの速さを競う。



<陣地とりじゃんけん>

人数：10人以上（1チーム5～6人）

- ①人数が等しくなるようにチームを2つに分け、離れた場所にそれぞれ陣地を作り陣地同士を線で繋ぐ（図を参照）。
- ②スタートの合図でそれぞれの陣地から一人ずつ相手の陣地に向かって出発し、途中の会ったところでじゃんけんをする。勝ったらそのまま進み、負けたら次の人が自分の陣地からスタートし、会った場所でじゃんけんをする。
- ③これを繰り返し、相手の陣地に先にたどり着いたチームが勝ちとなる。



<成長じゃんけん>

人数：10人以上

- ①最初は全員「ひよこ」でスタートする。ひよこはしゃがんだまま移動して、「ひよこ」同士でじゃんけんをする。勝ったら「にわとり」に成長し、負けたら「ひよこ」のまま次の相手（「ひよこ」）を探す。
- ②「にわとり」に成長した人は中腰で移動しながら同じ「にわとり」を探してじゃんけんをする。勝ったら「人間」に成長するが、負けたら「ひよこ」に逆戻りとなる。
- ③「人間」は歩いて移動しながら、同じ「人間」を探してじゃんけんをする。勝ったら「神」となって“あがり”となるが、負けたら「にわとり」に戻る。
- ④この繰り返しで、最後に「ひよこ」「にわとり」「人間」が一人ずつと勝ちあがった「神」に分けられる。

<おんぶじゃんけん>

人数：10人以上

- ①まず近くの人とじゃんけんをする（Aとaがじゃんけん）。負けた人（a）は

勝った人 (A) をおんぶして、移動しながら次のじゃんけんの相手を探す。

- ②他のおんぶしているペア (B と b) に出会ったら、おんぶされている上の人 (A と B) 同士がじゃんけんを行ない、負けたペア (B と b) が勝ったペア (A と a) をおんぶする (B と A、b と a のペアができる)。
- ③タイミングを見計らって終わりを宣言する。

4. おわりに

私たちの日常生活にすっかり溶け込んでいるじゃんけんは、ゲームの開始となるだけでなくあそびそのものとしても活用されている。特に道具も必要とせず、少人数から多人数にも対応が可能である。そのためじゃんけんの手の動作ができるようになり、勝敗のルールが理解できれば老若男女いずれの年代にも共通して使えるあそびの基本になるものである。また童謡を使ったじゃんけん（「お寺の和尚さん」など）なども存在し、手あそびとしての活用や表現あそびへの発展も可能である。さらに手だけでなく、足じゃんけんや身体全体を使ったじゃんけんといった工夫もできる。このようにじゃんけんがもつ多様な可能性を利用して、子どもたちのあそびを広げてあげたいと思う。

ちなみに、「じゃんけんが強い人」「じゃんけんが弱い人」といわれるが、じゃんけんは偶然性に多くを支配されるゲームであるという特性から、「グー」「チョキ」「パー」を毎回独立に1/3ずつの確率で出していけば、決して大きく負け越すことはない公平なゲームだということである。だからこそ面白く、広く活用されているのかもしれない。